

## 学長式辞

佐賀女子短期大学の二つの学科、コースでの課程を修了し、今日晴れて卒業式を迎えられる 150 名のみなさん、おめでとうございます。地元佐賀をはじめ日本各地から、そして、海を越えて、ミャンマー、ネパール、インドネシア、中国、韓国から、ここに集い、共に学んできたみなさんに、ご来賓のみなさま、佐賀女子短期大学の教職員一同および在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。

今日の卒業の日まで、みなさんを支え励ましてこられたご家族ご親族の方々、実習やアルバイトなどで支援をいただいた施設や市民のみなさんに対して、卒業生とともに、感謝を申し上げます。

また、本日「食とマネジメントコース」は、卒業生 14 名に学位を授与し、その歴史に幕を閉じることになりました。1968 年以来、卒業生 2468 名を食と栄養の世界に送り出してきた教職員、実習などでお世話いただいたみなさまにも、心よりの感謝を申し上げます。

さて、みなさんが学んだ 2 年間は、コロナウイルスによるパンデミックを全世界が共通に体験するという人類史に深く刻まれる 2 年間であったと言えるでしょう。あるイタリアの哲学者は、この時代を、精神的文化的意味ではなく、剥き出しの命を守るという大義のために、自由も友情も愛も権利も「宙吊り」にされた世界と評しています。

そんななかでの大学生生活は、みなさんにとって本当に過酷なものだったと思います。不況で実家の家計が圧迫され学費や生活費を支えることが困難になった、アルバイトの確保もままならない、もしかしたら家計や家族のケアもしなければならない、そんな状況で果たして卒業できるのだろうかという不安に苦しんでいたみなさんは少なくなかったはずです。

また、大学教育も「宙吊り」にされていたかもしれません。都市の大きな大学の多くがキャンパスから学生を締め出し、門を閉ざしました。その時、オンライン講義だけの毎日に、多くの学生が孤独を抱えていたはずです。

では、佐賀女子短期大学はどうだったのでしょうか？

コロナ禍においても、感染対策に万全の注意を払いながら、リアルな学びを止めることはありませんでした。

みなさんには、マスクにガウンにフェイスシールド、厳重に身を包み、毎日のように抗原検査を受けて、介護施設での実習に取り組んだ日々がありました。教育や栄養に関わる実習にも、実習規模や回数の縮小、予定の相次ぐ変更、突然の受入れの拒否などに遭遇し、多くの苦労があったと聞いています。しかし、実習なしに、ケアを必要とする人に寄り添い、幼児や生徒に教育することのできる力は身につかないと、みなさんも教職員も懸命にがんばりました。

また、海外への道がほとんど閉ざされようとしていた時にも、留学を止めることはありませんでした。多くの学生が韓国に旅立ち、高い語学力を獲得し、有意義な留学生活を送っていました。

また、留学生のみなさんは、日本政府の水際対策で 1 年数ヶ月入国が遅れるなど、知らない国日本での生活に、どんなに不安な毎日を送っていたことでしょうか。そして、入国してからは通常の授業とともに、日本語の猛特訓を受けながら、施設などでアルバイトにも懸命に取り組んでいました。それでも、かささぎ祭やボランティア活動などで、ダンスや母国の料理を紹介するなど、交流活動にも積極的でした。韓国の学生のみなさんも、ダンスサークル・ルーシーの活動を盛り上げてくれましたね。

すべての卒業生のみなさん、本当によくがんばりました。がんばりぬきました。本日ここに、その

勇気と行動力を讃えたいと思います。

そして、本学教職員のみなさん。私はこの2年間、数しれぬ制約や限界、厳しい問題に直面しながら、学生を励まし、知恵と工夫で教育をやり抜いてきたみなさんを誇りに思います。

さて、これからみなさんを待っている社会は、どんなふうに見えますか？

デジタル革命、100年長寿社会が本格的に人々の仕事や生活、価値観を変えていくでしょう。他方、戦争、環境破壊、巨大災害など生命を脅かすリスクが身近に迫ってくるかもしれない。

どう考えても、将来を希望的にとらえることは難しく、すべてが不透明で、いつも混乱していて、ついつい先行きが不安にもなる。

さらに、どう考えても今の社会、若者にとって生きやすいなんてとても思えない。ましてや日本は、ジェンダーギャップ指数、男女格差指標で世界でも最低ランクの国、面倒くさいおじさんが威張っている社会、女性にとってはきっと手強い世の中でしょう。

自信がない、わかります。怖い、そうかも知れません。まだこれから経験する未知のことだけに、そう感じて何とも不思議なことはありません。

でも、そんな課題だらけ、問題だらけの社会に、みなさんは必要とされているのです。

きっと、あちらこちらに、みなさんを待っている人たちがたくさんいます。

だから、思い切って、新しい仕事や生活に、この2年間、学んだ知識や身につけた専門性、鍛えてきた人間力をぶつけてみるのです。

みなさんの「今」は、あと80年ぐらいは続く人生の長い旅のまだ始まりに過ぎません。

まずは、これから5年間、がんばってみましょう。そのためのアドバイスをします。

ひとつ。失敗を恐れないこと。失敗から学ぶことです。私の人生はそれこそ失敗の連続でした。失敗した分だけ、賢くなり、人とのかかわりが増えていくのです。人生はなにがあるわからない。だから面白いのです。

ふたつ。人を批判することに時間を使わない。人の失敗を馬鹿にしないことです。人のことを笑っていると自分も笑われるのが怖くなって、失敗を恐れるようになります。優しいひとになってください。

みっつ。暇をつくって、旅に出ましょう。海外やできるだけ遠くの知らない場所がいい。

そして、一人で悩みを抱え込まないことです。そんなとき、誰かを頼ること、まわりの力を借りることは大切なことです。みなさんが、いつ大学に来て、教職員は必ず親身に相談に乗ってくれます。

さて、旭学園・佐賀女子短期大学は、最短で2025年4月に、新大学をつくらうとしています。武雄市をメインパートナーに、佐賀県にも支援を受けて、男女共学・短期大学併設の4年制大学開設をめざします。卒業生のみなさんにもぜひ訪れて、学んでほしいですね。これは、みなさんの母校の、失敗を恐れぬチャレンジです。本日ご参集のみなさまにおかれましても、ぜひとも応援をお願いします。

最後にあらためて、卒業おめでとうございます。レッツゴー サジヨタン卒業生！

2023年3月14日

佐賀女子短期大学 学長 今村 正治